



第3章 歴史資料・災害資料の保全・活用

吉川, 圭太
木村, 修二
奥村, 弘
市澤, 哲

(Citation)

歴史文化に基礎をおいた地域社会形成のための自治体等との連携事業, 15(平成28年度事業報告書):38-39

(Issue Date)

2017-03-17

(Resource Type)

report part

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/81009776>



第3章

歴史資料・災害資料の保全・活用

歴史資料ネットワークへの協力・支援

1. 災害対応

2016年4月に発生した熊本地震では、歴史資料ネットワークと協力して熊本の歴史研究者や博物館・図書館の関係者らとの情報共有をはかるとともに、4月26日には奥村弘・川内淳史・吉川圭太が現地へ赴き、レスキューや支援のあり方について意見交換し、その後も情報の提供や支援を継続した。

また、2016年10月に発生した鳥取県中部地震においても、歴史資料ネットワークに協力して山陰史料ネットなどと被害状況などについて情報共有を図った。

(文責・吉川圭太)

2. 神戸市兵庫区平野地区における活動

本年度も「奥平野古文書勉強会」が毎月1回(第2日曜)開催され(8月、11月、1月は休会)、すべての例会で木村がチューターを務めた。

(文責・木村修二)

石川準吉関係資料の調査

石川準吉関係史料については、本センターが調査、保存、目録作成に関係した石川準吉氏の国家官僚期の資料、国家総動員史関係資料等が、本年度、国立歴史民俗博物館で保存されることとなった。今後、同資料の分析等での支援を引き続き行うことになっている。石川準吉関係資料中の生野銀山関係資料の保存活用については、今後朝来市等と議論を進める必要がある。

(文責・奥村弘)

附属図書館震災文庫への協力

本学の震災復興支援・災害科学研究推進室からのサポート経費に基づき、災害資料学の実践的研究を附属図書館とともに行なった。

本年度は、2017年1月23日に第6回被災地図書館との震災資料の収集・公開に係る情報交換会(於社会科学系図書館)を開催し、岩手・宮城・福島の公立図書館及び大学図書館、国立国会図書館、長岡市立中央図書館文書資料室などに加えて、熊本で震災資料の収集を進めているくまもと森都心プラザ図書館からも参加を得て、震災資料の収集や活用に関して意見交換を行った。また、同日の午前中には附属図書館震災文庫の視察を行ったほか、22日には神戸市兵庫区・長田区を中心に震災フィールドワークを実施した。このフィールドワークでは、学生が現地解説を行い、また附属図書館震災文庫所蔵の写真資料等を利活用して配

付資料を作成するなどした。

このほか、3月10日にはハーバード大学ライシャワー日本研究所、附属図書館震災文庫と連携して災害アーカイブ構築のための研究会を開催する予定である。

(文責・吉川圭太)

九鬼家文書の寄贈について

神戸大学大学院人文学研究科に寄託中であった、九鬼家文書（全9点）が、2016年10月14日付で所蔵者佐野元昭氏より寄贈された。文書の概要については、人文学研究科地域連携センター発行の『Link』6号（2014年）に、「[速報] 新出の「九鬼家文書」の紹介」（村井良介研究員執筆）と題して紹介されている。

http://www.lib.kobe-u.ac.jp/infolib/meta_pub/detail

(文責・市澤哲)